

# 研究のあしあと 5

令和4年度 久美浜小学校研究推進部

令和4年 11月

10月14日、京都府小学校教育研究会 生活科教育研究大会が綾部市立東八田小学校で行われました。来年度から本校が研究校を引き継ぐこともあり、参加して感じたことや思いを簡単にまとめます。当然、本校の研究の方向性など異なる部分ではありますが、研究協力校になる全段階として、少しでも役立ててれば幸いです。

## 公開授業 1・2年

東八田小学校について全く知らないまま当日を迎えました。行ってみると、小規模校で1年生は7名、2年生は8名でした。そんな低学年生活科の授業は、体育館で行われました。（授業中の撮影が不可のため、写真はありません。）

1年生の学習は、「いきものとなかよし」。一人1つ虫かごを持ち、それぞれの昆虫を飼育していました。【写真上】虫に名前を付けて男女とも虫が触れて本時が展開したので、そういった環境面、下準備がきちんとされていました。

本時のめあて設定は、自分の虫とは仲良くなったけど、友達の子はどうか？という教師の投げかけから、子どもたちの意欲を引き出し、「もっとむしとなかよしになろう」という合意形成がなされました。主体的な学びをうたう上で、低学年においてこの手法は有効だと思います。

続いて、自分の虫を紹介する発表が各自から行われました。事前に作成されているもので、飼育状況を写真や動画で撮影したもので提示するなど、効果的にICTを活用していました。（操作は教師）

その後、虫との触れ合いが順次行われ、そこからの気づきの交流が行われました。虫への興味・関心が個々で異なるため、共通点や相違点のポイントを把握させることの難しさを感じました。ただ、虫の体について視覚的に確認しやすいよう、写真を掲示し、指し示すなどの工夫がありました。気づきを大切にしていることを示すように、廊下に学びの掲示がありました。【写真下】



2年生は、「うごくうごくわたしのおもちゃ」。おもちゃ作りの過程で、どうしてももっとよく動くようになるのかという視点をもとに、子どもたちが試行錯誤する活動の場面でした。ただ、もとになるおもちゃに手を加えていくので、うまくいかない場合に元に戻せない、変化が分かりにくいこと、1人グループもあり、相談したくてもできない設定だったことなど、少人数の弊害もあった感じでした。

資材は豊富に準備してあり、自由に使えるように準備されており、いろいろと試行できるよう準備されていました。

## 分科会 第3分科会【発展】

本分科会では、生活科から他教科・領域へと発展する内容を中心にレポート報告を聞き、意見交流を行いました。生活科において育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等などの基礎」となっています。これは幼児期の学びの特性を踏まえ、育成を目指す資質・能力を<sup>せつ</sup>截然と分けることができないことによるため、生活科での経験が上の学年につながる大切な「体験」とするよう、指導者の意図的で多角的・効果的な支援が重要であることが確かめられました。

また、出前講座でもお世話になった植田研究主事兼指導主事からの指導・助言では、

- ・子どもの思い、願いを大切に （自由な発想と言いつつも、そこには教師の視点が必要）
- ・他教科とのつながりも大切に （学習内容の系統性、学習方法の連続性）
- ・生活科は失敗しても許される学習 経験値が重要で、次に活かせる力の育成を目指す。

といったことを教えていただきました。

## 環境整備（メイン会場：体育館）



研究の具体的な足跡が掲示されていました。  
（各支部の報告も含めて掲示）